/mos.2mb1gotoid//:qtfA **齏の中で小行を黙するもでな繰り返しが浴室を満さす。** 十番糊食 0.2 ムドがイクヨンケーェコ : 製画用動 /qi.oibutsqom.www/\:qttA ただやスペルチ : イベキで用動 場部に受みるといてまその音なした。 (c) 5014 -5012 h-+w いまな人という小け物に至れず あるでいていている。 高えを覚えていた。 財団かちまるで 家中に小さ出る。 9 こそこそ岩という化け物がいる。 海座頭という化け物がいる。 **返**煙々羅という化け物がいる。 がっている。 足が伺える。とんだ枯れ尾花だ。俺は欠伸まじりに台所へ なかった。 の口元に見えた。 せ、俺は空気を求めて足掻いた。 い出していた。 「怖い、怖い」 「大事ない。水神様がいらっしゃる」 「明日は我が身」 「一曲吟じまする。ご所望、ご所望 見れば芝生にシーツが広がり、端から小さな靴を履いた 見回すが、誰の姿もなかった。井戸の傍に石が幾つか転 煙の重なりに柔らかい影が浮かび上がる。笑っている女 縁側を渡るしな俺は呟きを捉える。 拍子木の音が家中まで響いてくる。最近、不審火が絶え 訃報を伝える友人の言葉は遠く、俺は彼女のえくぼを思 記憶を探る俺を他所に黒電話が鳴り出す 俺は紫煙で輪を拵え、税に入っていた。 断るより速く、音が辺りを震わせる。瞬時に水が押し寄 盲い、杖を突いた老人である。 「なあ知ってたか?」 老人は背中の琵琶を下ろし始めた。 道の向こうから小さな影が近付いていた。 紅茶を手に戻ってみると子供も布も消えていた。 窓を白いものが過る。見る間に隣の庭へ流され、 子供の 百鬼夜行 十番勝負 百鬼夜行 十番勝負 負棚番十 行办鬼百 負棚番十 行ቃ鬼百 その果お效割に立っている。十目な即帯に暫みれている。 약 再び敵払窓校へ目多やこ式。 果払頭帯 31手を伝わてい去。 勝瀬の子掛外のでは、法事以付き合みちれが挙回以下共 割い財母や守んずいま。 類の散をはい、 挙お帰果へ向や で、気体、母お餅の語をみなまで間なず、小しいと言下に **動お果の素料を周囲へ尋なお。 が が、 その 割い 果 お 削 を** 対車型でを受けなりはかは、
があればのでって、 **かたなく刻い対にてあったホールを子掛と段的合った。** 留守なの体主人の弦事おない。 剥駃 3. 野) (と 関 で は) 目を強らそうと努める仏本な微値だいしなかった。 **郊れた剛から古を垂らし目王を描いた嬰状だった。** 縁側以気ってあると財母の姿が見らない。 解香の勲仏票は、下拱の姿払載らい法。 **敵冷語しかのお、その一割きり**許。 の野ではどういいないないの。 **計さり込まいと避休祖られていま。** ても強強な主というとはながらる。 のかし、神以向の下がっている。 一目人置という引む対域ないる。 「あの婆ちん。今ず冷神汁も」 9 大学などのでといる。 「まだれる。まで少しがけ」 の世話とお嫌いなる。 「このいともは」 は母さんは?」 「ピンつ理 「ここのい 断じた。 **@** 8 12 ※お化けの絵が上になります 盤 切る 鬼夜行絵巻物である。それをひもといてその怪異に戦慄す 出した雨は弱まる気配もない。 引かれ、足は浮き上がった。柄を離した俺は地面に尻餅を 宇宙は永久に怪異に満ちている。あらゆる科学の書物は百 る気持ちがなくなれば、もう科学は死んでしまうのである。

百鬼夜行 十番勝負

発行日 2014年8月24日発行

2015年2月10日改 連絡先 twitter:@donut_no_ana tumblr: http://donut-st.tumblr.com/

※楠樹暖様 (@kusunokidan) の折本 デザイン、作成図を使用しています。 http://www.oritoyo.com/

作者 ドーナツ

折る

山折り

-----谷折り

負棚番十 行夢東百

11 | 幽霊傘という化け物がいる。

□ 反木綿という化け物がいる。

傘は空へと遠ざかっていった。

化け物がないと思うのはかえってほんとうの迷信である

寺田寅彦著「化け物の進化」より

足元に傘が転がっている。渡りに船と開いた途端、

腕が

10

シャッターの下りた店先で俺は煙草を喫んでいた。降り

百鬼夜行 十番勝負